幼稚園教育実習日誌の実際

An Authentic Kindergarten Education Training Diary

（2022年３月31日受理）

山　本　房　子
Fusako Yamamoto

Key words：幼稚園教育，教育実習，日誌，保育記録

要　　旨

現在主に使用されている幼稚園教育実習日誌の形式は，時系列型，エピソード型の形式である。それぞれの特徴や効用があるとともに，課題も散見している。こうした課題を受けて，また，実習をより効果的なものとするため，近年，養成校，園ともに，実習日誌を見直したり新形式の日誌の作成が行われたりしている。本研究で取り上げた新形式の日誌の特徴としては，実習生と園の実習担当者との対話や振り返りを想定したものとなっている。つまり，実習日誌への記録は，実習生の振り返りとしてではなく，実習担当者との対話につながる資料となっている。実習生と担当者とが日誌を介してやりとりする中で，実習生の保育を見る視点が深まるものとなっている。今後，養成校の実習日誌の書き方指導や，園との共通理解の在り方が問われる。

1．は　じ　め　に

保育者を目指す学生にとって，実習において実習日誌を書くことは必要不可欠である。神永（2016）は，「保育記録のはじまりは実習日誌」とし，実習日誌を書くことは「保育者としての体験をそこに重ねながら，保育の営みに必要な力をつけていくために重要」なこととしたうえで，実習日誌を書くためには保育を支える様々な力，保育を観察する力，何を書くのかを選択する力，文章にする力，振り返って考察する力などの必要性を述べている。[1]

実習において必要不可欠な実習日誌だが，記録のとり方に不慣れな実習生にとって，時に負担感を感じるのも否めない。図１は学生の実習日誌である。規定の用紙では書ききれず，何枚も紙を足して記入している。こうした日誌は，例年少なからず見られる。

図１　学生の実習日誌（実習初日　表面）

実習前の事前指導ではできるだけ規定の用紙内におさ

まるよう記入することを指導している。加えて，そうした事前指導について，実習の手引き等を通して園にも伝えてはいるものの，図１のような日誌が毎年多数見られる。もちろん，実習生が必要感をもって作成している場合もある。一方で，実習園からこうした日誌を求められたり，当然だととらえられていたりすることもある。

園の生活やその流れを把握するために子ども達の活動や保育者の言動，環境等について詳細な記録をとること，そしてその記録をもとに振り返り，子どもの学びや保育者の意図を見出すこと，視点をもつことは，実習生にとって大切な学びである。小川（1988）の言うように，記録をすることによって，自分がかかわっている保育の場面や子ども一人一人について覚えておくことや，意識のなかにしっかりつかまえておくことにつながるからである。[2]

一方で，図１のような日誌作成のために要する時間や労力，内容の有用性や，記録以外の実習中に取り組むべき活動とのかねあいについても検討する必要があるだろう。

筆者は現在養成校に勤務しているが，前職は幼稚園に勤務していた。毎年，実習生を受け入れ，指導にあたってきた。実習生を担当することで，自身の保育を振り返ったり，保育の基本を改めて問い直したりする機会も多々あった。その一方で，通常の業務に加えての実習生の指導は，少なからず負担もあった。特に，日誌の指導については誤字脱字といった文章能力的なものから保育を視るポイント等その内容についてまで細部にわたるため，多くの時間を要した。

養成校によって日誌の形式も異なり，実習生によって日誌への書きぶりや内容等も異なっているが，多くの実習生は，図１のような詳細な日誌を毎朝提出していた。そうした日誌から，実習生のやる気や頑張りを感じると同時に，実習生がどれだけ時間を要したのかという負担感を感じずにはいられなかった。また，学生が養成校でどのような指導を受けていたのかという疑問を抱いていたのも事実である。

公益社団法人兵庫県保育協会発行の「保育実習・教育実習生受け入れ　てびき」には，実習生の詳細な実習記録の現状について，実習生は「全ての時間と行動を逐一書かなければならないように感じ，記入することに一生懸命」になってしまっていて，見るべき視点やポイントがわからなくなっているとも指摘されている。

以上の実習日誌や書き方指導についての負担感については，養成校側，園側両者で抱えていると言えよう。そこで，本研究では，昭和30年～50年代の文献資料や近年の先行研究をもとに，幼稚園教育実習の既存の形式の特徴及び課題点等を概観していくとともに，近年使用されている新形式の日誌を検討し，今後の幼稚園教育実習日誌の在り方についてその糸口を探っていきたい。

２．日誌の形式について

（１）昭和33年発行『保育実習の手引き』[4]より

昭和33年発行「保育実習の手引き」には，第３章「保育実習の実際」第３節「教育実習記録（実習日誌）のつけ方」に，「実習日誌の目的とその内容－どんな形式がよいか」として，実習日誌の様式の検討について述べられている。そこでは，「実習日誌はなんのためにつけるか」，その目的を実習生が明確にもっておくことの必要性を強調した上で，実習の目的「保育者としてそのたいせつな領域を実際に行動的に経験すること」の達成のために，「実習園において行われている保育の実態」や実習生の言動を実習日誌に記録していくこと，そして，その記録をもとに反省していくことが必要だとされている。加えて，実習の「はじめのころ興味を引く事がらと終りごろ関心をもつことは非常に異なる」ため，「実習日誌の形式は一様に決定することは非常にむずかしい」とし，「合理的な実習日誌のつけ方というものがもっと工夫，研究されるべき」だとしている。

また，大学，短気大学，保育学校５校で使用されている「教育記録用紙」が掲載されている。一日単位で記入する形式，月単位で記入する形式の用紙があり，記入項目も様々である。再検討中と記載のある資料もあり，当時の実習日誌の形式は様々だったと思われる。現在の様式と比べ異なる点として，どの形式の記録用紙にも，指導教諭からのコメント欄が設けられていないことである。指導教官の検印欄も，５校中３校の用紙には設けられているが，５校の用紙しかないため断定はできないが，当時の日誌は実習生が記録をとるためのものだったと思われる。

（２）昭和45年発行『保育実習の手引き　改訂版』[5]より

先述の「保育実習の手引き」の改訂版である。第３章「保育実習の実際」第３節「教育実習記録（実習日誌）のつけ方」「実習日誌の目的とその内容－どんな形式がよいか」については，事例の変更はあるが，昭和33年版のものとほぼ同じ記載である。一方で，昭和33年版掲載の養成校５校の「教育記録用紙」にかわり，巻末に日本私立短期大学協会の「実習記録の形式」（以下,「日私協形式」）として『実習計画』と『実習記録』（図２），「実習における週案および日案の形式」が掲載されている。『実習計画』は現在の指導案,『実習記録』が現在の実習日誌だと思われる。『実習記録』は欄の途中で切れているため全容は明らかではないものの，現在の時系列型の日誌の形式に近い。昭和33年版掲載の「教育記録用紙」が，養成校によって様々な形式であったことをふまえると，この「日私協形式」がどのような意図や背景で作成されたのかを見ていくことで，現在の実習日誌の主流である時系列型形式の日誌の経緯が明らかになると思われる。

次節でも触れるが，文部省で昭和41年から３年間審議された「教育実習に関する調査研究会」の最終報告書（昭和44年３月）が少なからず影響していると思われる。その詳細等については次稿に譲りたい。

月　　天候　　実習幼稚園名
実習生氏　名

時　間	場　面	指導意向	幼　児　の　活　動
8.30	登　園		
9.00 9.30	自由遊び		
9.45	集　合		

図２　実習記録
（「保育実習の手引　改訂版」（1970）をもとに筆者作成）

（３）昭和53年発行『保育実習要項』[6]より

本資料には，教育実習の意義，目標，内容等が記されている。前半には学校教育における教育実習全般について，後半には，「保育実習予定表」，「実習園調査」，「保育実習日誌」（図３），「保育実習学生調査書」，「保育実習成績評価表」が掲載され，実習生が直接書き込むようになっている。さらに，付録として小学校の指導案に加えて，幼稚園の指導案や幼稚園設置基準，幼稚園教育要領が掲載されている。

「保育実習日誌」は，Ａ４版１枚で，時間と幼児の活動にそって記録していく時系列型形式の用紙となっている。先の昭和45年発行資料の図２実習記録の様式を受け継いでいる。この様式の説明には，第５章「教育実習の

月　日　曜日	天候		園長 (主事) 印		指導 教諭 印	

時間	場　面	指導意向，幼児の活動等
	登　園	
	降　園	

所感・反省

指導教諭の批評及び注意	

図３　保育実習日誌
（「保育実習要項」（1978）をもとに筆者作成）

実施」,「４教育実習終了後の処置」に,「日誌を整理し,自己の行動を反省し，その後の教育活動の資料とすること」の一文だけである。実習生は記録をしていくことに加えその記録をもとに，反省し次に生かすこと，振り返りが求められていることが伺える。

以上，昭和30年代～50年代の実習日誌の形式について見てきたが，当時の実習日誌の形式については様々であるが，時系列型の形式が主流となり，実習生の言動及び記録について，実習担当者からの指導や検閲が位置付けられていったと思われる。

（４）近年の先行研究より

ここでは，現在，幼稚園教育実習日誌の形式の主流となっている,時系列型形式（以下,時系列型）とエピソード型形式（以下，エピソード型）の日誌を中心に見ていくとともに，新しい形式の日誌についても近年の先行研究からみていく。

石井ら（1999）は時系列型の日誌は，時間の流れにそっているため一日の活動が把握しやすいものの，一斉活動の際の記録としては向いているがそれぞれの遊びや個々の幼児の遊びや言動をとらえるには不向きであるとして，各場面での幼児の動きや保育者の動きを一体のものとしてとらえていくためには，エピソード型の可能性を挙げている。[7]

小山（2007）は，時系列型について,「保育の流れを理解することは容易であっても，一人一人の子どもを捉える視点が育ち難いという欠点がある」としている。一方，エピソード型については，書く視点を的確に捉えている学生にとっては「幼児理解や保育者の援助理解」につながる有効な記録となるものの，学生側の「記録にふさわしい意義ある保育場面」をどう見極めるのか，保育をみる視点の重要性を挙げている。[8]本来エピソード型の記録とは,「実習生が実践にかかわるなかで何らかの形で心揺さぶられた『出来事』『場面』」を,「自分の視点から省察することにより，専門的な理解を深めることに重点をおいた書式」であるとされている。[9]

つまり，保育の様々な事象や場面のなかで，どこを切り取るのかという視点が重要である。保育用語辞典によると，エピソードによる記録とは,「ある特定の具体的場面を，そこに関係する人物の行動やかかわりの展開に留意して,できるだけ詳しく記述したもの」であるが,「現場のなかで立ち上がる問いについて，その問いとの関連のなかで，その現象の何らかの『意味』が見えてきたときに浮かび上がり,描きだされるもの」となるためには,出来事を詳細に記述するだけでは不十分で,「そこにかかわる人々の個々具体的な生き生きとした様相を描き出されるような記述」であることが求められている。[10]

それぞれの場で様々な活動が展開される保育において，どの場面を切り取り，どう記述し，振り返るのか,その視点の獲得は実習生だけでは難しい。

開（2012）は保育に関する実習日誌形式の構造的な分析を行い,実習段階ごと,その目的に適した形式があり,養成校と園が日誌の特徴を共通理解することがよりよい実習につながるとしている。[11]

養成校での実習日誌の検討，作成，指導については,近年様々な取り組みが始まっている。

杉岡ら（2017）は保育所実習において，子ども理解を重視した実習記録様式の検討を行っている。用紙の大きさはＡ４で，表面左半分に「１日の流れ」として，時系列にそって「子どもの生活の実際」,「実習生の対応と子どもの反応」の欄を,右半分に生活の流れのなかでの「保育者からの学びと気付き」や「印象に残った子どものエピソードとその考察」「本日の実習での疑問点や困った点」「明日の実習の課題」欄を設けている。裏面に,「自由記述のページ（必要に応じて使用)」として,「本日の活動における環境構成と学び」「本日の保育資料」と記されている。実習生が比較的自由に記録できる形となっている。その様式を使用した学生へのアンケートによると，日誌作成の負担の減少とともに子どもの理解や子どもの発達に応じた保育者の援助の理解につながったと回答する割合が，従来の記録よりも高かったとされている。[12]

陸路ら（2019）は，従来の時系列型やエピソード型の記録に加え，自由遊びの場面や行事の様子などを環境図等を用いてわかりやすく書き込み記録する「空間的な記録」や，印象に残った写真を添付したエピソード型記録も紹介している。[13]

また，岩田ら（2019）は,「実習日誌に写真を組み込んだドキュメンテーション型実習日誌」（以下，ドキュメンテーション型）の形式を用いた事例を分析し，実習

日誌の記述内容が，従来の時系列型，エピソード型に比べて，実習生が「子どもの遊びの楽しさや面白さに気付きやすくなること，保育者が実習生から学びやすくなること，保育のプロセスを語り合い，共有しやすくなること」を見出している。[14]

小山は（2019）時系列型とエピソード型を組み合わせた日誌の様式として，見開き1枚の左ページには，従来の時系列記録と同じように，幼児の活動に基づいて環境構成，教師の援助や実習生の気付き等を記入していくが，毎回同じ内容とならないよう「日によってはこの部分をしっかり書くといった形で焦点化」できるよう指導を行ったとしている。右ページには考察と反省・感想の欄とともに，「幼児の指導や援助」欄を設け，実習生が指導教諭の子どもへの具体的な援助や指導，環境構成や準備等を見て読み取ったこと，気付いたことや解釈したこと，指導教諭への質問なども記載する欄を設け，子どものエピソード記録と絡めて，保育者の言葉がけや関わり方，環境構成についての気付きや，実習生が子どもと関わる中で心がけて関わったことや試してみたことなどの実習生自身の関わりも振り返りながら自由に記述できるようにしている。[15]

以上のような養成校側の取り組みとともに，園側による新形式の日誌作成の動きも見られる。

3．新形式の日誌について

（1）大阪府私立幼稚園連盟提案　実習日誌

園側の新形式の日誌として，大阪府私立幼稚園連盟（以下，大私幼）が作成した「（一社）大阪府私立幼稚園連盟　実習ガイドライン」に掲載されている実習日誌（資料１）を見てみる。

ガイドラインによると大私幼実習日誌は，Ａ４用紙１枚で，今日の主な活動，クラスのねらい，実習生の今日の目標を記入する欄はあるものの，大半が，「一日の振り返り（面談の視点）」の欄で占められている。

「一日の振り返り（面談の視点）」の視点として，次の６つの項目がある。【今日の実習で，上記の「クラスのねらい（園のねらい）を活動のどんな場面で見たか】【今日の実習で，子ども同士のかかわりや保育者の子どもへのかかわり，保育者の仕事等で学んだこと・気付いたこと】【今日の実習で，子どもへのかかわりや保育者の仕事等で疑問に思ったこと・迷ったこと・困ったこと】【今日の実習で，印象に残った子どものエピソードとその考察】【今日の実習で印象に残った環境（園庭・保育室環境）にかかわる子どもの姿，及びその環境構成の意図の考察】【今日の実習を踏まえて，明日はどんな目標を持って実習するのか】疑問に思ったこと等の欄には，実習担当者と面談をした後，どのような回答が得られたかという記録を記入する欄も設けられている。

そもそも大私幼日誌が作成された理由の第１に，実習生の負担軽減を挙げている。大私幼は，記録をとることの意義は認めながらも，日誌の項目内容を精査し，「子どもの『今』，『ここ』の思いに寄り添えるようになること」，を重視した「体験重視型実習日誌」を作成したのである。

この日誌の効用として，実習生，指導担当教員双方の立場から次の３点を挙げている。まず，実習生にとっての効用は，①求められる視点が明らかなので，日誌が書きやすい，②記入部分が少ないため記入に要する時間の軽減につながり，その分保育の準備等ができる，③記入した内容をもとに反省会（振り返り）で意見を言いやすい，である。

園の指導担当教員にとっての効用は，①記入した内容にそって反省会（振り返り）をすることができるため，アドバイスをしやすい，②日誌に記入された質疑に直接対話の中で答えたり指導ができたりするので，指導担当教員が日誌を確認して添削する時間が大幅に短縮される，③実習生がどう感じ，どこに疑問を持っているのかを把握しやすく，指導に生かすかすことができるとされている。

実習日誌が保育の記録としての役割だけでなく，指導担当教員と実習生との対話の資料としての役割をもつことを明確に記している。園側の配慮として，実習生からの意見や疑問に対して「否定せず，丁寧に問い返し話題を深めること」を挙げている。実習生は日誌をもとに，指導教員との対話を繰り返すことによって，保育者としての必要な視点を獲得することができるのである。

（2）福山市の私立幼稚園において提示された実習日誌

次に福山市の私立幼稚園において採用されている実習

日誌（資料２）（以下,福山私幼日誌）について見てみる。

福山私幼日誌はＡ４両面１枚で，幼児の主な活動やねらい，実習生の目標，指導担当教諭からのコメント欄に加えて，両面に「指導担当教諭とのカンファレンスの視点」欄が設けられている。

表面には「一日の振り返り（指導担当教諭とのカンファレンスの視点）Ａ」欄，裏面には「一日の振り返り（指導担当教諭とのカンファレンスの視点）Ｂ」欄があり，それぞれに３つの問いかけがあり，それに答える形で記入するようになっている。それぞれを見てみる。

「一日の振り返り（指導担当教諭とのカンファレンスの視点）Ａ」には次の項目欄がある。「クラスのねらい（園のねらい）は，今日の活動のどんな場面で見られましたか？」「今日,子ども同士のかかわりや保育者の役割。仕事等について,気づいたことや学んだことは？」「今日,子ども同士のかかわりや保育者の役割･仕事等について,疑問に思ったこと・迷ったこと・困ったこと等はありますか？」実習生が，保育のなかでねらいを意識することや，実習生自身の気付きや疑問点を記入するようになっている。

「一日の振り返り（指導担当教諭とのカンファレンスの視点）Ｂ」は,次の項目欄がある。「今日,印象に残った園児のエピソードを記述し，なぜ園児がそうしたのかも考察してみましょう」「今日，印象に残った園内の環境と，それにかかわっていた園児の姿はどんな様子でしたか？その環境には保育者のどんな意図があったのかも考察してみましょう」「今日の振り返りをふまえて，実習生自身の自己評価は？また明日の実習に向けて目標にしようと思うことは？」エピソードの記入，環境構成や保育者の意図に目を向けること，自己評価と明日への目標を記入するようになっている。どの項目も，実習生への質問スタイルで書かれている。この日誌をもとにして，実習生と実習担当者とが，保育の視点を明らかにした上で一日の振り返りを行い，明日にどのようにつなげていくかを考えられるようにしている。

４．お わ り に

本稿では幼稚園教育実習日誌の形式について，これまでの取り組みやその実践について概観するとともに，現在主流となっている時系列型やエピソード型形式の日誌や新形式の日誌２例を見てきた。本稿のまとめ及び今後の課題や幼稚園教育実習日誌の展望として次の２点を挙げる。

第一に，実習日誌は，実習生の記録でありながら，実習生と実習担当者との対話のツールとしての役割も求められるようになってきている。

先述の，公益社団法人兵庫県保育協会発行の「保育実習・教育実習生受け入れ　てびき」においても，日誌に記録をすることによって「実習生は自身の経験を改めて振り返るとともに，学びを深めていく」が，「指導担当者は実習生の記録から気付きと学びを丁寧に読み取り，どうしてそう思ったのか等の問いかけをすることで，さらに新しい発見を引き出」すとしている。記録することにより，実習で学んだことを蓄積していくが，それだけでは実習記録としては不十分で，実習担当者と「振り返ることで今後の課題や新たな目標設定」につながるとしている。[16]

実習生が日誌に記録を書き，その記録をもとに反省会等で実習担当者と対話をし，実習担当者からの助言を実習生は再び日誌に記していく。こうした実習生と実習担当者との対話の積み重ね，その記録が求められているのである。

実習担当者との対話や振り返りにつなげるためには，日誌の形式のみならず，振り返りについての園への理解が欠かせない。実習担当者にとって実習生との対話や振り返りは大切だと理解していても，その時間を十分確保できるわけではない。実習生との対面での対話が最適ではあるが，日誌を介した対話も必要であろう。実習日誌上での対話を有効なものとするためには，どのような記入項目が必要なのか，また対話のしやすい日誌の形式についてICT等の活用も視野にいれ検討していく必要もあるだろう。

第二に,実習日誌の形式について今後,養成校,実習生,園の現状に合わせて検討していくことが必要となってくる。その際には，実習を通して，また実習日誌への記録を通して，何を育てたいのかという視点で形式を見直していくことが求められる。そうした取組は養成校，園ともにすでに始まっているが，合わせて，養成校での実習指導の方法を検討するとともに，その取り組み，つまり

養成校での指導の現状を園に伝えていくこともひき続き必要である。

木内ら（2000）は，子ども理解を高めるための重要な要素として「実習日誌指導者の適切な指導・助言」を挙げている。実習生の学びは実習生自身の意欲や資質もあるが，「指導者との相互作用で，子ども理解と保育の読みとりが深まる」のである。指導者との相互作用とは，「学生の質問や疑問への応答や，学生が何気なく記述したことの意味づけを現場保育者から与えられること」である。そのことについて，「日誌指導の在り方について養成校側からの提言の必要性」を述べている。[17]

本学では，幼稚園教育実習においてこれまでの時系列型形式の日誌に加えて，令和２年度より福山私幼形式日誌も併用している。（令和２年度は１名，令和３年度は約10名）今後も新形式の日誌を用いる園は増えてくると思われる。新形式の日誌の書き方についての指導の検討とともに，新形式の日誌の記録内容の分析，及び新形式の日誌を用いた園での振り返りや対話の内容についても調査していきたい。

６．参考・引用文献

１　神永直美　「フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画」萌文書林　（2016）p124
２　小川博久　編「保育実践に学ぶ」建帛社（1988）
３　公益社団法人兵庫県保育協会「保育実習･教育実習生　受け入れ　てびき」（2020）
４　中央幼児教育研究会　編「保育実習の手引き」学芸図書（1958）
５　中央幼児教育研究会　編「保育実習の手引き　改訂版」学芸図書（1971）
６　教育実習研究会　編「保育実習要項」めいせい出版（1978）
７　石井叔子　他『保育者を育てるー実習日誌の指導についてー』「日本保育学会大会研究論文集」（52）（1999）pp646-647
８　幼児理解と保育者理解を深める保育記録に関する研究Ⅱーエピソード記録型実習日誌の効用と課題ー
９　前掲書１　p58
10　森上史朗　柏女霊峰　編　「保育用語辞典　第８版」ミネルヴァ書房（2016）p175
11　開仁志『保育に関する実習日誌の形式』「富山国際大学子ども育成学部紀要」第３巻（2012）pp95-104
12　杉岡幸代他『学生の主体的な学びとなる実習記録の在り方ー子ども理解を重視した新記録様式を使用した学生のアンケート調査からー』「大阪キリスト教短期大学紀要」　57号（2017）　pp103-117
13　陸路和佳　他『こどもを見る眼を育む実習日誌に付いて』「鶴見大学紀要　第３部」56号　pp65-69　(2019)
14　岩田恵子　他『〈ドキュメンテーション型実習日誌〉の試みと課題』「玉川大学教育学部紀要」第19号（2019）pp125-140
15　小山優子『保育者の力量形成を促すカリキュラムの検討（Ⅲ）ー月週案・要録の書き方理解と作成課題を通してー』「島根県立大学松江キャンパス研究紀要」　58巻（2019）pp21-31
16　公益社団法人兵庫県保育協会「保育実習･教育実習生　受け入れ　てびき」（2020）
17　木内英実　他　『実習日誌を通しての子ども理解の変化』「日本保育学会大会研究論文集」（53）（2000）pp608-609

資料　1

大私幼実習日誌（　　園）

日付・曜日	月　　日（　　）	学校名･氏名	
今日の主な活動	クラス（　　）		
クラスのねらい（園のねらい）		実習生の今日の目標	

一日の振り返り（面談の視点）

【今日の実習で、上記の「クラスのねらい（園のねらい）」を活動のどんな場面で見たか】

【今日の実習で、子ども同士のかかわりや保育者の子どもへのかかわり、保育者の仕事等で学んだこと・気付いたこと】

【今日の実習で、子どもへのかかわりや保育者の仕事等で疑問に思ったこと・迷ったこと・困ったこと】

面談記録

【今日の実習で、印象に残った子どものエピソードとその考察】

※エピソード＝遊び、生活習慣、けんか、かかわりを、具体的な保育者や子どもの言葉や行動を添えて記入

【今日の実習で、印象に残った環境（園庭・保育室環境）にかかわる子どもの姿、及びその環境構成の意図の考察】

【今日の実習を踏まえて、明日はどんな目標をもって実習するのか】

印

※（一社）大阪府私立幼稚園連盟実習ガイドラインをもとに筆者作成

資料　2-1

幼稚園教育実習日誌

実習生の学校名と氏名	学校名		氏名	
記入日	令和　　年　　月　　日（　　）			
実習クラス	学年	歳児	クラス	組
実習クラスの幼児の今日の主な活動				
実習クラスの本日のねらい（園のねらい）	※指導担当教諭から教えてもらいましょう。			
実習生の本日の目標				

一日の振り返り（指導担当教諭とのカンファレンスの視点）A

上記の「クラスのねらい（園のねらい）は、今日の活動のどんな場面で見られましたか？

今日、子ども同士のかかわりや保育者の役割・仕事等について、気づいたことや学んだことは？

今日、子ども同士のかかわりや保育者の役割・仕事等について、疑問に思ったこと・迷ったこと・困ったこと等はありますか？

→裏面へ続く

山　本　房　子

資料　2-2

幼稚園教育実習日誌

一日の振り返り（指導担当教諭とのカンファレンスの視点）B

今日、印象に残った園児のエピソードを記述し、なぜ園児がそうしたのかも考察してみましょう。

※エピソードの記述のポイント‥誰とどこで何をしていたのか、その時に園児がどんな発言をしていたか等。

エピソード

考察

今日、印象に残った園内の環境と、それにかかわっていた園児の姿はどんな様子でしたか？

その環境には保育者のどんな意図があったのかも考察してみましょう。

（絵や図の方が環境を表現しやすい場合には、絵や図を記入するのも可）

環境と園児の姿

保育者の意図

今日の振り返りを踏まえて、実習生自身の自己評価は？

また明日の実習に向けて目標にしようと思うことは？

今日の私への自己評価は？

明日の実習の目標は？

指導担当教諭からのコメント

指導担当教諭検印　　印